

物流情報学研究科

○ディプロマポリシー

物流情報学研究科では、空理空論を語らない実学主義の理念のもとに、環境問題への配慮やリスク対応にした生産から流通、消費までのモノおよび情報の流れを効果的に管理するロジスティクスを中心に高度の専門性が求められる人材を育成することを目的とし、以下に示した方針のもと所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得し、研究科の定める審査および試験に合格した者に学位を授与します。

修士課程

1. 現代における諸問題を広い視野から、物流情報学の専門的知識を運用できる能力を修得します。
2. 社会に生じている事象を物流情報学の枠組みから専門的に分析し、論理的に思考できる能力を修得します。

博士後期課程

1. 現代における諸問題を広い視野から、物流情報学の専門的知識の深い理解をもち、発展的に高い研究能力を修得します。
2. 物流情報学の従来の研究を発展させ、創造性の高い研究課題を自ら設定し遂行する能力を修得します。

○カリキュラムポリシー

物流情報学研究科は、「物を生産し消費者へ届けることが使命の製造業や流通業にとって、物流は必要不可欠な機能である。経済のグローバル化により市場競争がますます激化しつつあるが、企業の優位性を持続していくために、従来の物流の領域を越え、生産をうまくコントロールし、欲する消費者へ過不足なく提供する仕組み、いわゆるロジスティクスの効果的な実現が極めて重要な課題である。加えて、地球温暖化防止の観点から資源の再利用、環境問題への配慮も重要性を増している。課題の解決には、情報の蓄積・共有、やり取りなどが伴い、進展著しい情報ネットワーク技術の積極的な活用が求められる。」(2012年度『大学院履修要綱』)という課題に対応できる人材養成を目指しており、そのために必要な授業科目を設置しています。

また、平成20年度から大学院物流情報学研究科では、産学連携による実践的なロジスティクスを担う人材育成を目的とした「サプライチェーン・ロジスティクス人材育成プログラム」の検討を開始しました。本プログラムは、経済産業省の平成20年度「産学連携人材育成事業(サービス人材分野)」に採択された事業です。この検討結果を踏まえて、大学院物流情報学研究科では、産学連携のカリキュラムが平成22年4月から正式にスタートしました。企業の方による講義、企業を訪問して現場を実感する講義、そして企業現場で実際の改善を考える演習と、多様な産学連携の科目も設けられています。修士課程においては、ロジスティクスを柱として、物流履修モデルと情報履修モデルを設けています。・物流履修モデル物流、ロジスティクスの高度で専門的な知識を中心に学ぶ履修モデルで、企業のロジスティクスシステムに関連する科目を中心に構成されています。また、近年は、環境問題への配慮も重要性を増しており、社会的な問題への対応の視点に関する科目も設置しています。一方、ロジスティクスは極めて実践的な学問であり、企業の実際の動向の分析も重要である。企業のロジスティクス担当者を招いての講

義、企業訪問による実践系の科目も設置しています。・情報履修モデルロジスティクスにおいて、情報システムをいかに応用するかという高度で専門的な知識を中心に学ぶ履修モデルで、情報及び情報通信システムに関連する科目を中心に構成されています。また、ロジスティクスに不可欠な定量的な解析に関する科目を設置しています。さらに、ロジスティクスの実際の現場を定量的に分析し、改善に結び付けていく科目も設置しています。

博士後期課程においては、物流学関連科目と情報学関連科目から 8 単位以上、及び専攻科目の研究指導を原則 3 年次にわたり 1 年次 4 単位で合計 12 単位、全体で 20 単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することによって達成されなければならないとしています。なお、博士課程の特殊研究については、必修・選択の区別はありませんが、いずれも指導教員の指示する科目を履修するものとされ、専攻、論文テーマと関連の深い科目が履修されるようになっています。